

掲載日：2020年12月8日

尼崎の放課後デイ 発達障害児にプログラミング指導

力伸ばして就労支援も

小学生から高校生が放課後や長期休暇の時に過ごす放課後等デイサービス事業所で、発達障害児にプログラミングを教える教室が尼崎市にある。これまで300人以上が教室で腕を磨き、ソフト開発の仕事に就いた卒業生もいる。保護者らは「論理的に考える力を伸ばし、将来の仕事につながるべし」と期待をよせる。

【障光苑】

現場から

尼崎市に3教室がある「キッズテック」で、現在、発達障害の児童・生徒ら約150人が学ぶ。



プログラミングを学ぶ子どもら
—尼崎市の「キッズテック玉江橋教室」で



「キッズテック」を運営する「プラスイノベーション」代表の住山健さん—尼崎市で

集中力、論理的思考養う

1時間、学んでいる。玉江橋教室（同市昭和通3）では、動作を指示するアロックを画面上で組み立て、独自のキャラ

クターを動かして簡単なゲームを作っている。小学2年の福本晴紀さん（8）は「オリジナルのキャラクターやゲームを作れるのが楽しい」と笑う。母の泉さん（44）は「集中力が付き、他の子どもたちよりも我慢強く接することができるようになり、自信もついた」と話す。

文部科学省の調査（2012年）によると、全国の公立小中学校の児童生徒で抽出した約5万人の6.5％に発達障害

の傾向があった。県障害福祉課によると、放課後等デイサービスは小学生から高校生までの児童・生徒ら人につき1人以上の支援員がつくことから、きめ細かな支援ができる。県下では約740カ所の事業所があるが、プログラミングの教室は珍しいという。教室を運営する「プラスイノベーション」代表の住山健さん（31）は大学卒業後、尼崎市内のNPO法人で発達障害の大人を支援していた。「協調性や社会性がない」と周囲にレッテルを貼られて引きこもりになり、仕事に就けない人を多く見てきた。「子どもは何かから強みを生かす支援が必要

発達障害
脳機能の発達に関係する障害で、読み書き計算が苦手な「学習障害」▽「注意欠陥多動性障害」▽対人関係が苦手な「自閉症スペクトラム」の三つに分類され、重複する場合もある。年齢や生活環境によっても症状は変わり、うつ病などの2次障害に苦しむこともある。

「要」と思うようになり、福祉課によると、放課後等デイサービスは小学生から高校生のまでの児童・生徒ら人につき1人以上の支援員がつくことから、きめ細かな支援がで

る。県下では約740カ所の事業所があるが、プログラミングの教室は珍しいという。教室を運営する「プラスイノベーション」代表の住山健さん（31）は大学卒業後、尼崎市内のNPO法人で発達障害の大人を支援していた。「協調性や社会性がない」と周囲にレッテルを貼られて引きこもりになり、仕事に就けない人を多く見てきた。「子どもは何かから強みを生かす支援が必要

を伸ばす。県下では約740カ所の事業所があるが、プログラミングの教室は珍しいという。教室を運営する「プラスイノベーション」代表の住山健さん（31）は大学卒業後、尼崎市内のNPO法人で発達障害の大人を支援していた。「協調性や社会性がない」と周囲にレッテルを貼られて引きこもりになり、仕事に就けない人を多く見てきた。「子どもは何かから強みを生かす支援が必要